

年頭の辞



消防庁長官 佐々木 敦朗

平成28年の新春を迎えるに当たり、平素から地域の安心・安全を守るため、消防防災活動や消防関係団体業務などにご尽力いただいております全国の消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

我が国の消防は、先人のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてまいりました。

一方、昨年は、口永良部島の噴火をはじめ全国的に火山活動の活発化が見られたほか、夏には各地で大雨被害が発生し、特に9月の関東・東北豪雨では茨城県常総市において鬼怒川の堤防が決壊するなど、甚大な被害もたらされました。

また、川崎市の簡易宿泊所火災や広島市の飲食店火災など、多数の方が犠牲となる火災も発生しました。さらに、猛暑による熱中症の救急搬送人員数も、依然として高止まりしています。

首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の発生が危惧される今日、消防に対する国民の期待はますます高まっております。また、社会構造の変化に伴い複雑多様化、高度化する事故から、国民の生命、身体及び財産を守るためには、消防防災体制を更に強化していく必要があります。

このため、消防庁では、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化をはじめ、消防団をはじめとする多様な主体による地域防災力の充実強化や火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進などを中心とした施策に取り組んでまいります。

あわせて、今年開催される伊勢志摩サミットにおける消防・救急体制の確保や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催に向けた大都市等の安心・安全対策の推進など、国際会議や大規模イベントに対応するための危機管理体制の充実強化も図ってまいります。

また、東日本大震災の発生から今年で5年となりますが、被災地では、依然として厳しい状況の中で消防防災活動を強いられている消防本部もあります。被災地における消防防災体制の充実強化も、引き続き手を緩めることなく推進してまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。